

問1 岡山県から四国側への自動車による到達圏域の変化を調べた調査において、1985年時点と比較して、2011年時点では四国側のより広範囲の地域へ短時間で到達できるようになっています。このような変化が生じた歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 1988年に瀬戸大橋が開通し、本州と四国が道路と鉄道によって直結されたため。 | 2. 1988年に青函トンネルが開通し、全国的な高速道路網の整備が完了したため。 | 3. 1998年に明石海峡大橋が開通し、徳島県から岡山県への移動が容易になったため。 | 4. 瀬戸内海沿岸の埋め立てが進み、四国との間の海上の距離が物理的に短くなったため。 |
|---|--|--|--|

問2 本州四国連絡橋の各ルートと、それらが結ぶ都道府県の組み合わせとして、適切なものはどれですか。 (2024年 和歌山公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|
| 1. 児島・坂出ルート — 岡山県と香川県 | 2. 神戸・鳴門ルート — 大阪府と徳島県 | 3. 尾道・今治ルート — 山口県と愛媛県 | 4. 瀬戸大橋ルート — 兵庫県と香川県 |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|

問3 中国・四国地方の各県の製造品出荷額の内訳を比較した統計において、山口県は岡山県や広島県といった近隣の県と比べて特定の業種の割合が非常に高く、県全体の出荷額の約3割を占めているという特徴があります。この山口県で特に盛んな、石油化学コンビナートなどが形成されている工業の名称として適切なものはどれですか。 (2022年 鳥取公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------------|----------|--------|
| 1. 化学工業 | 2. 輸送用機械器具製造業 | 3. 食料品工業 | 4. 鉄鋼業 |
|---------|---------------|----------|--------|

問4 高知県では、冬でも暖かい気候を利用してビニールハウスなどで野菜を育て、全国的に出荷量が少ない冬から春にかけて出荷する農業が盛んです。なすの出荷時期に関する統計において、全国平均では7月や8月にピークを迎えるのに対し、高知県では3月から5月にかけて出荷のピークがあります。このような、自然条件を活かして出荷時期を早める農業形態を何といいますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 促成栽培 | 2. 抑制栽培 | 3. 近郊農業 | 4. 二毛作 |
|---------|---------|---------|--------|

問5 本州四国連絡橋の3つのルートのうち、世界最長の吊り橋である明石海峡大橋を含む「神戸・淡路・鳴門ルート」における、2000年から2016年にかけての交通量と旅客輸送の変化について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2019年 兵庫県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 年間の通行台数が約427万台増加して1300万台を超え、徳島県と兵庫県の間を結ぶ乗合バスの旅客輸送人員も増加傾向にある。 | 2. 年間の通行台数は約427万台減少しており、それに伴って本州と四国を結ぶ移動手段は乗合バスからフェリーへと回帰している。 | 3. 通行台数は1300万台前後で横ばいであるが、景気の影響によって貨物輸送量と乗合バスの旅客数はともに大幅に減少している。 | 4. 通行台数は増加しているものの、環境保護の観点から大型の乗合バスの通行が制限されたため、旅客輸送の主体は鉄道に移行した。 |
|---|--|--|--|

問6 岡山県やくらしき市、山口県周南市などの瀬戸内海沿岸部には、多くの石油化学コンビナートが立地しています。これらの工場群が、内陸部ではなくあえて臨海部に集中している理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 沖縄公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 海上交通の便が良く、港湾施設を利用して原料の輸入や製品の輸送を効率的に行えるから | 2. 製品の冷却に大量の淡水が必要のため、大きな河川の河口付近に工場を建てる必要があるから | 3. 主要な消費地である東京や大阪などの大都市に隣接しており、高速道路網による陸上輸送に有利だから | 4. 周辺の山地で採掘される石炭や鉄鉱石を、短い距離で工場へ運び込むことができるから |
|---|---|---|--|

問7 広島県の工業において、製造品出荷額の36.2%を「機械工業」が占めている背景や理由として、適切な説明はどれですか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|--|--|
| 1. 自動車の製造や造船などの加工組立型産業が集積しているため。 | 2. 広大な農地を活かした食料品加工業が県の全域で発達しているため。 | 3. 石油化学コンビナートが集中し、プラスチックなどの生産が最大であるため。 | 4. 高速道路沿いにIC(集積回路)を生産する電子部品工場が集まっているため |
|----------------------------------|------------------------------------|--|--|

問8 中国・四国地方に位置し、瀬戸内海に面したある県では、児島湾などの沿岸部で大規模な「干拓」が行われ、農地が拡大されてきました。この地域に関する説明として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. もともと塩分を含み農業に不向きだった土地を改良し、広大な農地として利用している。 | 2. 地方中枢都市としての機能を高めるため、沿岸部の埋め立て地に多くの官公庁を移転させた。 | 3. 波の静かな入江を利用して、カキや真珠などの大規模な養殖業を産業の中心としている。 | 4. 山間部の急斜面を切り開いて段々畑を造り、温暖な気候を利用してミカンの栽培を行っている |
|---|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 1988年に瀬戸大橋が開通し、本州と四国が道路と鉄道によって直結されたため。	岡山県から四国側への自動車の移動時間が大幅に短縮されたのは、1988年の瀬戸大橋開通が最大の理由です。それ以前はフェリーによる海上輸送が中心であり、天候の影響を受けやすく時間もかかっていましたが、陸路（橋）で結ばれたことで24時間の安定した往来が可能となり、生活圏や経済圏が拡大しました。明石海峡大橋は兵庫県（神戸市）と淡路島を結ぶルートであるため、岡山県からの直接的な到達圏拡大の主因とは言えません。
問2	答え 1 児島・坂出ルート — 岡山県と香川県	本州四国連絡橋の「児島・坂出ルート」は、岡山県倉敷市児島と香川県坂出市を結んでおり、その中心となるのが瀬戸大橋です。「神戸・鳴門ルート」は兵庫県と徳島県を、「尾道・今治ルート」は広島県と愛媛県を結んでいます。大阪府や山口県から直接四国へ架かっている連絡橋はありません。
問3	答え 1 化学工業	山口県は瀬戸内工業地域の一角を担っており、戦前から発達していた石炭化学や、戦後の石油へのエネルギー転換に伴って整備された石油化学コンビナートが海岸沿いに集積しています。そのため、製造品出荷額に占める化学工業の割合が、自動車産業（輸送用機械）が盛んな広島県などと比べて突出して高いのが特徴です。
問4	答え 1 促成栽培	高知県は沖合を流れる黒潮（日本海流）の影響で、冬でも温暖な気候に恵まれています。この気候を活かし、ビニールハウスなどを用いて作物の成長を早め、他の地域からの出荷が少ない時期に市場へ送り出す「促成栽培」が行われています。これにより、なすの出荷ピークを全国平均とは異なる春先に持ってくるのが可能になっています。
問5	答え 1 年間の通行台数が約427万台増加して1300万台を超え、徳島県と兵庫県の間を結ぶ乗合バスの旅客輸送人員も増加傾向にある。	1998年の明石海峡大橋の開通により、神戸・淡路・鳴門ルートは本州と四国を結ぶ主要な交通路となりました。統計データによると、2000年から2016年の間にこのルートの年間通行台数は大幅に増加し、利便性が高まったことで高速バス（乗合バス）による旅客輸送も活発になっています。この変化により、かつて輸送の主役であったフェリーの利用が減少するなど、四国地方の交通体系に大きな影響を与えました。
問6	答え 1 海上交通の便が良く、港湾施設を利用して原料の輸入や製品の輸送を効率的に行えるから	瀬戸内工業地域は、波が穏やかな瀬戸内海の海上交通を活用できる利点があります。石油化学工業は、原料となる原油を海外からの輸入に頼っているため、大型船舶が直接接岸できる港湾施設を備えた臨海部が立地に最適です。このように、原料の受け入れから製品の出荷までを一貫して効率的に行うため、海に面した場所に工場が集まっています。
問7	答え 1 自動車の製造や造船などの加工組立型産業が集積しているため。	瀬戸内工業地域は、沿岸部の埋め立て地を利用して鉄鋼や石油化学などの重化学工業が発展しましたが、広島県においては特に「加工組立型」の性質が強い自動車産業や造船業が発達しています。そのため、製造品出荷額等の構成においても、金属や化学を抑えて機械工業の割合が高くなっているのが特徴です。
問8	答え 1 もともと塩分を含み農業に不向きだった土地を改良し、広大な農地として利用している。	岡山県の児島湾周辺などは、遠浅の海を堤防で仕切り、水を抜いて陸地にする「干拓」によって造られた土地です。干拓地はもともと海底だったため土壌に塩分を多く含んでおり、農業を行うには不向きな環境でしたが、水路の整備や排水技術の向上によって、県内を代表する農業地帯へと発展しました。